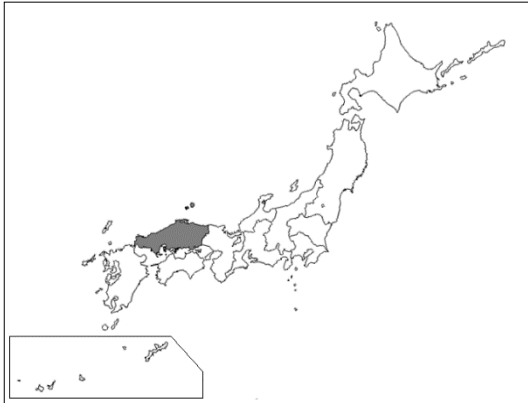


(9) 中国



中国地域では、景気は持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す (は上方に変更、 は下方に変更)。

前回からの主要変更点

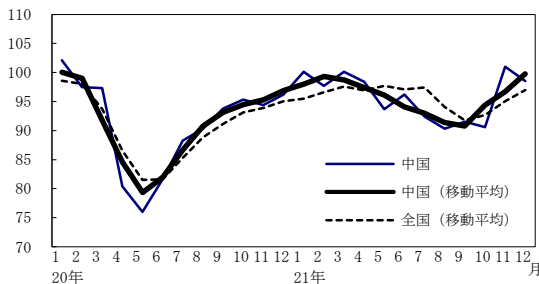
	前回 (令和3年12月)	今回 (令和4年3月)	
景況判断	新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が徐々に緩和されつつあるものの、このところ弱い動きとなっている	持ち直しの動きとなっているものの、新型コロナウイルス感染症による厳しい状況が残る中で、一部に弱さがみられる	↑
鉱工業生産	弱含んでいる	緩やかに持ち直している	↑
個人消費	一部に弱さが残るものの、持ち直しの動きがみられる	このところ持ち直しに足踏みがみられる	↓
雇用情勢	感染症の影響が残る中で、弱い動きとなっているものの、求人等の動きに底堅さが増している	感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している	↑

1. 鉱工業生産の動向

鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

10-12月期の鉱工業生産は、輸送機械は普通乗用車等が増加したこと、化学が増加したこと等により、前期比5.8%増となった。

鉱工業生産指数



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		7-9 月期	10-12 月期	10月	11月	12月
輸送機械	23.2	▲25.4	29.7	▲9.3	59.3	0.1
汎用・生應用・業務用機械	13.3	3.1	6.0	7.1	3.7	▲4.0
化学	12.2	▲2.2	9.5	1.6	0.6	▲9.7
電子部品・デバイス	8.8	▲4.3	1.2	▲1.0	▲0.8	7.1
食料品・たばこ	6.8	2.9	▲5.3	▲3.1	9.9	▲9.1
鉱工業	100.0	▲4.9	5.8	▲1.0	11.5	▲2.5

(備考) 1. 2015年=100、季節調整値。中国の最新月は速報値。
2. 全国及び中国の太線は中心3か月移動平均、直近月は2か月平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。
2. 10-12月期、12月は速報値。

2. 個人消費の動向

個人消費はこのところ持ち直しに足踏みがみられる。

(1) 地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

10-12月期は前期比3.4%増となった。月別にみると、10月は前月比3.0%増、11月は同0.2%減、12月は同0.8%増となった。

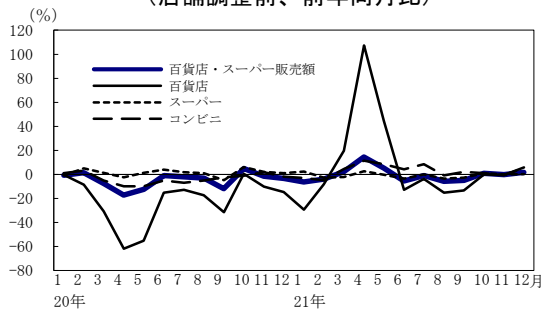
(2) 百貨店・スーパー販売額

百貨店・スーパーは、10-12月期は前年同期比0.8%増となった。月別にみると、10月は前年同月比0.8%増、11月は同0.1%減、12月は同1.6%増となった。

百貨店は、10-12月期は前年同期比2.1%増となった。

スーパーは、10-12月期は同0.4%増となった。

百貨店・スーパー販売額等
(店舗調整前、前年同月比)



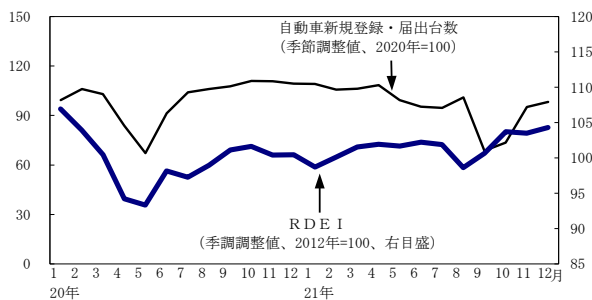
	2021年10-12月	2021年10月	11月	12月
RDEI (消費*1)	3.4	3.0	▲0.2	0.8
百貨店・スーパー(*2)	0.8	0.8	▲0.1	1.6
百貨店(*2)	2.1	▲0.1	▲0.5	5.8
スーパー(*2)	0.4	1.1	0.1	0.2
コンビニ(*2)	2.0	1.1	▲0.6	5.3
乗用車(*3)	▲19.4	▲35.3	▲13.1	▲9.2
(季節調整値)(*3)	1.0	7.1	29.5	3.3

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

3. 乗用車は、新規登録・届出台数 (上段は前年同期(月)比(%))

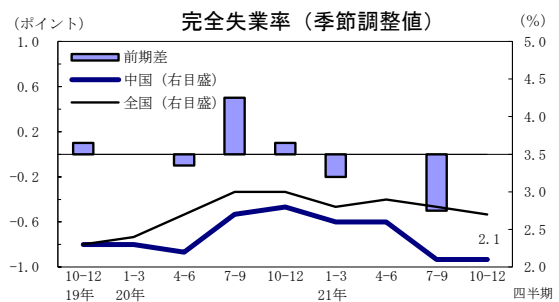
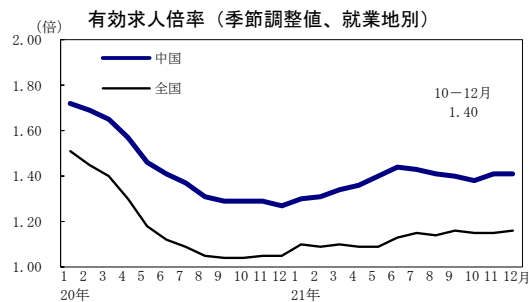
RDEI (消費) と自動車新規登録・届出台数の推移



3. 雇用情勢

雇用情勢は感染症の影響が残る中で、引き続き弱い動きとなっているものの、求人等は緩やかに持ち直している。

有効求人倍率は低下している。完全失業率は前期と同水準となっている。



(備考) 内閣府にて季節調整。

(13) 景気ウォッチャー調査（令和4年1月調査）景気判断理由の概要

9. 中国

(◎良、○やや良、□不変、▲やや悪、×悪)

分野	判断	判断の理由
現状	▲	・新型コロナウイルスオミクロン株の影響で、あらゆる営業の動きが停止している。地元百貨店の当社の出店で初めて1日の売上0円を記録している（一般小売店 [茶]）。
	□	・車の生産が回復してきたものの、新型コロナウイルス第6波の影響で、来客数が減少したため、景気は変わらない（乗用車販売店）。
	×	・新型コロナウイルスの新規感染者数の増加で、利用客が半減するなど状況はかなり悪くなっている。臨時休業する店舗も多くなっている（タクシー運転手）。
	○	・新型コロナウイルスの影響で、受注量が減少傾向にある（広告代理店）。
	◎	・仕入れ、販売を含め、品不足から様々な商品が値上げ傾向にあり、様子見の状況にある（化学工業）。
企業動向関連	▲	・今年に入り、新型コロナウイルスの新規感染者数が爆発的に増加し、当社や取引先にも感染者が出ていることで、機械装置は生産調整を余儀なくされている。また、車載関係でも工場の稼働停止等により、電子部品や印刷製品の生産が減少する見込みである（電気機械器具製造業）。
	×	・まん延防止等重点措置でテレワークが増加し、コピー出力の需要は減少している（コピーサービス業）。
	◎	・1月の主要客からの受注量は、前年並みであるが、落ち込みがひどかった3か月前と比べると、大幅に増加している（輸送用機械器具製造業）。
雇用関連	□	・採用者数の状況に大きな変化がなく、新型コロナウイルス流行前の求職者数に回復する兆しがない（人材派遣会社）。
	▲	・人材紹介に関する問合せ数が前月から25%減少している。新型コロナウイルス禍で、転職活動に少し消極的になり、情報収集はするが、応募までは至らない様子である（民間職業紹介機関）。
その他の特徴コメント		▲：新型コロナウイルスの感染が拡大し、旅行どころではなくなっている（旅行代理店）。 ▲：新型コロナウイルスの新規感染者数の増加に伴い、レストランの予約のキャンセルが目に見えて増加している（観光名所）。
分野	判断	判断の理由
家計動向関連	□	・新型コロナウイルスの動向次第であるが、仕事関係、家族連れ、少人数の若者の利用のいずれも、かなり減少し、売上も低迷する（一般レストラン）。
	▲	・新型コロナウイルスの感染状況が週単位で変化し、客の心理次第で景気が好転する可能性もあるが、現時点では、新型コロナウイルスの先行きが不透明なため、景気は良くならない（コンビニ）。
企業動向関連	□	・景気は現状を維持するが、新型コロナウイルスの動向次第で、事業継続に支障が出る可能性も出てくる（輸送業）。
	▲	・鉄原材料価格の高止まりに加え、電気料金は燃料費調整額や再生可能エネルギー発電促進賦課金の上昇が見込まれ、採算は悪化する一方である。客からの納期対応要請により、超過勤務対応が必要となるため、労務費も増加する（金属製品製造業）。
雇用関連	□	・来年度の採用に向けた周辺企業の動きが鈍いため、景気は良くならない（学校 [短期大学]）。
その他の特徴コメント		□：新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いた限り、景気の上昇はない。新型コロナウイルス禍では最低限の食の買物以外は需要が増加することはない（スーパー）。 ▲：新型コロナウイルスがピークアウトしても、しばらくは、取引先の売上回復に時間が掛かるため、景気はやや悪くなる（金融業）。

(D I) 現状・先行き判断D I (中国)の推移 (季節調整値)

